令和３年度　第２回安来市総合教育会議　会議録

１．日　時　　令和４年２月３日（木）　午前１０時００分から午前１１時３０分まで
２．会　場　　安来庁舎　防災研修棟
３．出席者
（構成員）　安来市長　田中武夫
教育長　　秦　誠司
教育委員　小村修司
教育委員　加藤隆志
教育委員　寺田　禎
教育委員　平野千恵
（事務局）　総務部長　大久佐明夫
教育部長　原みゆき
政策推進部長　前田康博
教育部教育総務課長　遠藤浩司
教育部学校教育課長　三保貴資
地域振興課長　大谷　宏
総務課長　金山尚志
教育総務課総務係長　足立隆博
学校教育課学事係長　佐伯由里子
地域振興課社会教育係長　広野貴志
総務課総務行政係長　吉原秀和
総務課統計情報係　景山爽夏
４．欠席者　　なし
５．傍聴者　　２名
６．議　題　　（１）安来市立小中学校適正配置について
７．内　容
○金山総務課長（司会）
ご案内しておりました時刻になりましたので、ただいまから令和３年度第２回安来市総合教育会議を開催いたします。議事に入るまでのところは、総務課で進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
まず、傍聴人につきましてご報告いたします。本日の会議に２名の方が傍聴したいとの申出がありました。これについては議長の許可を得ております。また、会議の開会以降、傍聴の希望があれば随時入室を許可するということで確認しております。それでは、傍聴人を入室させてください。
それでは、市長がご挨拶を申し上げます。

○田中市長

おはようございます。開会にあたりましてご挨拶申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大により、皆様それぞれの立場で様々なご協力をいただき、また、ご多用の中、本日の令和３年度第２回安来市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

教育委員の皆様には、平素から本市の教育行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回の会議は、昨年１１月以来、２回目の会議となっております。前回の会議では、「安来市立小中学校の適正配置」と「県立高校魅力化推進事業」について意見を交わしていただきまして、大変有意義な会議となりました。本日の会議は前回に引き続き、安来市立小中学校の適正配置を議題としております。

現在は安来市教育政策推進会議から受けました提言を踏まえまして、教育委員会において適正配置の基本方針が検討されており、２月中には策定されると伺っております。さらに令和４年度以降には策定いただきました基本方針に基づき、基本計画を策定するための審議会を設置し、議論を進めていく予定であります。

市内の児童、生徒を取り巻く環境は、その都度非常に変化をしております。安来市が目指す学校教育と望ましい教育環境につきましては、教育委員会はもとより、市全体、オール安来で取り組んでいかなければならない施策であると捉えております。丁寧かつスピード感を持って取り組んでいく考えでございます。この総合教育会議においては、その根幹となります方針につきまして議論できればと考えております。

議題の詳細につきましては、事務局より説明を申し上げます。委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、簡単ではございますが開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いします。

○金山総務課長（司会）

それでは会議に入ります前に、本日の資料を確認させていただきたいと思います。事前にお送りしております資料ですが、次第、名簿、要綱、それと別冊になっております基本方針（案）、以上になりますが、皆様お手元にありますでしょうか。

設置要綱第７条により議事録は公開となりますが、基本方針の資料につきましては、意思形成過程のものであるため目次のみの公表とさせていただきます。

本日の会議終了時刻はおおむね１１時半を予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、設置要綱の規定により、市長に議長として、この会議の進行をお願いします。

○議長（市長）

そういたしますと、レジュメに従って進めたいと思います。

まず議題１の安来市立小中学校適正配置について、その中のアでございますが、「安来市が目指す教育環境と望ましい学習環境」について説明をお願いします。

○原教育部長

教育部の原でございます。

１年前の総合教育会議で、この適正配置の検討を進めていくという合意がなされて以降、今年度６回の教育政策推進会議を経て、このように方針案を策定いたしました。教育政策推進会議では、安来市の子どもたちの学びを充実し、健やかな育ちを担保するにはどのような教育を行い、どのような教育環境がふさわしいか真摯にご議論いただきました。

方針案の２５ページをご覧ください。安来市の総合計画をはじめ、教育大綱、各校が掲げている教育目標、人口ビジョンについてとその検証、社会教育施策、ふるさと教育と交流センター事業、地域づくり対策など、膨大な資料提供をし説明を行いました。

教育政策推進会議の提言は、一つには、安来の環境を生かし安来らしい教育を展開すべき。二つには、安来市の教育は学校だけでなく地域住民や組織など、多様な主体が参画しみんなで教育を行うべき。三つには、多様な子どもたちの実態に鑑み、一人一人に即した個別最適な教育を展開することなどに力点が置かれました。いただいた提言を最大限尊重し、今後は本方針を軸に小中学校適正配置について検討を進めて参ります。

本日の進め方ですが、目次をお願いいたします。３から５の大項目の下にそれぞれ（１）から（３）又は（４）までの小項目を設けていますが、それぞれ共通の論点がございます。レジュメに記載のとおり、（ア）生きる力を育む教育の推進、（イ）地域と連携協働した学校教育、（ウ）安心して学習できる教育環境の整備という論点でございます。本日はこの論点ごとに説明を行います。その説明の後、意見交換をお願いします。その後、適正配置を進める上で基準となる考え方と今後の進め方について説明しますので、再び意見交換をお願いいたします。

私からは以上です。

○三保学校教育課長

学校教育課長をしております三保です。

私からは学校教育の視点から、ア、安来市が目指す学校教育と望ましい学習環境の（ア）「生きる力」を育む教育の推進についてご説明いたします。

まず、５ページ、６ページについてご説明いたします。安来市においては、教育大綱が令和２年３月に定められ、学校教育の充実の基本目標として生きる力を育む教育の視点から、確かな学力を育てる教育の推進、豊かな心を育てる教育の推進、健康な心身を育てる教育の推進に努めています。また、島根県の教育の特徴として

ふるさと教育の推進、そしてそれらの教育の推進に欠かせない体制を整えるため、学びを支える教育環境の充実に努めています。

特に確かな学力を育てる教育という視点では、安来市においては各種調査の結果からも教師や友達との信頼関係によりおおむね学校生活に満足している様子が伺えます。また、授業についても落ち着いて学習に向かう姿が見られています。しかし残念ながらここ数年の安来市の子どもたちの学力は、全国学力学習状況調査や県学力調査において、全国や県の平均を下回ることがあります。少子化の影響から切磋琢磨する姿が見られにくく、従来の受験等を念頭に置いた外発的動機付けではなく、主に内発的動機付けによる学習意欲の向上に努めているところです。そういった意味では、学校と地域を結びつけたふるさと教育やキャリア教育の充実は欠かせないものであると思っています。さらに、学習用端末の持ち帰りを視野に入れた新しい家庭学習の研究を進め、授業と家庭学習の好循環を生み出す必要があると考えております。このＩＣＴ活用教育の充実については、学校はもちろんのことですが、情報科学高校との連携によるプログラミングや動画編集といったＩＣＴ教育をさらに推進できる可能性を探り、充実させていきたいと考えております。

７ページ、８ページでは、保幼小中連携で教育目標の連続性についての課題を挙げております。それぞれの制度や体制を見直し系統的に進めていく必要があると考えております。

特別な支援を要する子どもたちの支援については、これまで同様切れ目ない支援体制の構築に向け適切な就学相談の実施と就学先の決定の充実に努め、学校間の引継ぎや関係機関との連携を促進していきます。また、安来市においては、市内の中学校５校と２校の県立高校、松江養護学校、緑が丘養護学校で特別支援教育魅力化コンソーシアムを立ち上げております。より一層の特別支援教育の充実に努めて参ります。

安来市の適正配置を考えるにあたっては、小中学校の教育課程のあり方も考えていく必要があります。令和の時代を生きる子どもたちにとって主体性を育むことは重要なことです。新たな学習指導要領においては、「知識」、「技能」に加え、「思考力」、「判断力」、「表現力」、そして「学びに向かう人間性」が求められています。これらの確かな学力を構成する３つの資質・能力を、今後の学校の適正配置に向けて、どのように育成していくかは、重要な視点となります。

１１ページには、小中連携、小中一貫、義務教育学校について、その関係を示しておりますが、適正配置に向けて検討していかなければならないと考えております。

最後に、１５ページに記載しておりますが、適正配置に向けた基本的な考え方として、中央教育審議会で取りまとめられた「令和の日本型学校教育の構築を目指して」では、令和を生きていく子どもたちを育成する視点として、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、子ども同士や多様な他者と協働することにより、多

様な思考の交流による、より良い学びを生み出すことが求められています。地域による特徴を生かせる教育環境の公平性の課題の解消を図り、子どもたちの育ちや学びを最優先に考えております。

私からは以上です。

○大谷地域振興課長

失礼します。地域振興課長の大谷です。

私からは、社会教育の視点から、（イ）地域と連携・協働した学校教育について説明をさせていただきます。

６ページの５．安来市が目指す学校教育と望ましい学習環境の（１）「生きる力」を育む教育の推進、１）主体的に学ぶ子どもの育成についてでありますが、社会教育の視点からは交流センター事業等におきまして、地域と子どもたちの体験活動を通して主体性を育む活動を行っているところです。今後も子どもたちの体験活動を充実させていくようにしていきたいと考えております。

続きまして８ページをお願いいたします。（２）地域と連携・協働した学校教育、２）地域との連携・協働体制の構築です。地域との連携・協働体制を構築していく上で、大きく５つの項目・視点が必要であると考えております。１点目は、新学習指導要領で注視をされております、社会に開かれた教育課程の実現に向け、地域全体で子どもたちの成長を支える体制の構築が必要であると考えます。２点目は、学校と地域で目標やビジョンを共有し、地域全体で子どもたちの成長を支えていくため、「学校運営協議会」の設置が必要であると考えます。３点目は、地域学校協働活動の仕組みを整備し、学校と地域の協働活動により学校教育と社会教育が一体となった地域づくりが必要であると考えます。４点目は、学校と交流センターが学校の教育課程や地域の行事等へ相互に関わり、子どもから大人まで学び合う生涯学習による地域づくりの視点も必要であると考えます。最後５点目です。放課後児童クラブにつきましても、引き続き子どもたちを見守っていく体制の継続が必要であると考えております。これら５つの項目・視点が地域との連携・協働体制の構築に必要になると考えているところです。

続きまして１２ページをお願いいたします。４．適正配置を検討するにあたっての考慮するべき事項、（２）学校と地域との協働についてです。現在、安来市では、学校のふるさと教育やキャリア教育、学習支援などに対して交流センターや地域コーディネーターを中心に、学校と地域の連携・協働活動を進めているところであります。学校側では、今後、学校と地域住民が力を合わせて学校の運営に取り組む仕組みである「学校運営協議会」、コミュニティ・スクールと呼ばれていますが、その設置を検討いたしまして、地域側では、地域全体で教育に取り組む仕組みづくりとして進めている「安来市共育協働活動推進事業」を「学校運営協議会」や「共育協働活動」と一体的に進めていく体制を検討していく必要があると考えています。

あわせて、地域との連携・協働体制を進めていくためには、交流センターの役割が非常に重要となってきますが、交流センターの業務が多岐にわたっていますので、今後、交流センターの役割や事業を進めていく職員の業務内容等を整備する必要があると考えております。学校と地域の関係を考慮していく上で交流センターの在り方の検討は避けて通れないと考えておりますので、学校の適正規模・適正配置と並行いたしまして、交流センターの在り方について検討していきたいと考えております。加えて放課後児童クラブにつきましても引き続き体制の検討を継続していきます。

続きまして１５ページ、５．適正配置に向けた基本的な考え方の（２）学校と地域との協働についての視点です。地域との関係も大変重要な視点となりますので、現在ふるさと教育やキャリア教育、学習支援活動などで多くの地域の方が学校の支援に入っています。新学習指導要領でも社会に開かれた教育課程の実現に向けて、「地域とともにある学校」として運営をしていく必要があります。地域の核として機能する交流センターが子どもから大人まで学びによる繋がりを創り出し、地域づくりに繋げていくことが必要です。そのためにも、地域と交流センターの関わりを強化していく必要がありますので、学校が持つ多様な機能に留意し、地域コミュニティーの存続や地域の在り方の視点を持つことが重要になっています。あわせて、放課後児童クラブとの連携についても現状のニーズに応えられるよう、運営を継続させていくことが必要であると考えております。

私からは以上です。

○遠藤教育総務課長

失礼いたします。教育総務課長の遠藤です。

安来市立小中学校適正配置基本方針の目次をご覧ください。私からは、３．安来市が目指す学校教育と望ましい学習環境の（３）安心して学習できる教育環境の整備、４．適正配置を検討するにあたっての考慮すべき事項の（３）学校施設の整備管理について、５．適正配置に向けた基本的な考え方の（３）学校施設の整備・管理についての視点について説明をさせていただきます。

９ページをご覧ください。（３）安心して学習できる教育環境の整備の１）学校施設についてでは、施設・設備の計画的な整備の必要性と、教育環境の向上と老朽化対策の取り組みが必要であるとしております。

２）学習環境についてでは、生徒１人１台の端末を配備することにより、ＩＣＴ機器の積極的な活用が重要であるとしております。

続いて１２ページをご覧ください。４．適正配置を検討するにあたっての考慮すべき事項の（３）学校施設の整備・管理についてでは、校舎及び屋内運動場のうち、築後３０年以上が５５％あり、「安来市学校施設の長寿命化計画」にあります、①施設総量の適正化、②予防保全・長寿命化、③効率的・効果的な管理運営に基づき

ながら、児童生徒の安全、安心を最優先にし快適な教育環境の整備について検討していくこととしております。

続きまして１３ページの（４）安来市の実態に応じた規模・配置についてにつきましては、次の議題のイ、適正配置の進め方で説明をさせていただきます。

続きまして１５ページをご覧ください。５．適正配置に向けた基本的な考え方の（３）学校施設の整備・管理についての視点につきましては、市内の児童、生徒は居住地にかかわらず同じ教育環境で学ぶ権利があることから、環境改善に向けて施設整備を進めていくことが必要であるとしております。

なお、先ほどと同様に（４）安来市の実態に応じた規模・配置についての視点につきましては、次の議題イ、適正配置の進め方で説明をさせていただきます。

私からの説明は以上です。

○議長（市長）

それぞれアの（ア）から（ウ）まで説明をいただきましたが、皆様方ご質疑、ご意見をいただきたいと思いますがどうでしょうか。まずは、（ア）「生きる力」を育む教育の推進についてを議題といたします。

まず秦教育長いかがでしょうか。

○秦教育長

失礼します。教育長の秦でございます。

先ほどそれぞれの担当のところでご説明をいただいたとこなんですけども、ここで今一度、急激に変化している社会状況の中で、子どもたちに育成すべき「生きる力」について少しお話をさせていただければと思っています。

現在の子どもたちが成人する頃には、日本全体の総人口の減少でありますとか、グローバル化、あるいは科学技術革新の急激な変化によりまして、ｓｏｃｉｅｔｙ５．０社会の到来といろいろな言葉で予測がなされているところでございます。

また、安来市も喫緊の課題の一つに、少子高齢化あるいは人口の地域偏在化の影響もございまして、推進会議の中では自治会の機能が果たせないぐらいの自治会もあるというような声も聞かれたところでございます。

このような社会状況の中で次代を担う子どもたちが、社会の担い手としての様々な考え方を吸収しながら、自分自身の豊かな人生とそれから社会への冒険、こういった新しい価値を生み出す生きる力っていうものの育成が求められているところでございます。ご承知のように、学校教育は文部科学省が示す学習指導要領をもとに行っているところでございますけれども、新しい学習指導要領ではですね、３つの資質・能力を強く打ち出しております。１つは、「生きて働く知識・技能の習得」、それから「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、それから「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」という言葉で表現をされております。個人的には従来から言われている「知・徳・体」がバ

ランスよく育っているということが、変わらず重要性があると考えているところでございます。安来で学ぶ子どもたち、安来に住んでいる子どもたちは、学校で学んでいることに合わせ、地域の人・もの・ことを通してそれらの力をつけていく、そういったようなことが今行われていますし、同時にそれが安来への愛着や誇りを同時に育むのではないかと考えてます。

それから、市長さんの冒頭のご挨拶にもありましたが、新型コロナウイルスの対応の中で、やはり学校がすごく大切な役割を果たしているなということを改めて感じているところでございます。市全体で進めている「ＩＣＴやすぎ」の取り組みに合わせ、学校の方でもＧＩＧＡスクール構想を進めておりますけれども、ＩＣＴの活用とリアルな体験を合わせていかないと、先ほど申したような力、生きる力ですね、バランスよく育成できないだろうというようなことを考えているところでございます。

そういったこれからの社会の状況、それから子どもたちが身につけていかなければならない力を考え合わせた上で、小学校１７校、中学校５校の配置の適正化について検討していくことは、非常に喫緊の課題であるという考えを持っております。先ほど各課から説明があった項目についてしっかりと審議するための方向性の土台としてこの基本方針というものを策定して、今後また検討を進めていくというような視点で、またご検討をいただけたらと思っているところでございます。

少し長くなりましたけれども、生きる力を育むためにどうしていったら良いのかというようなところで、ご意見をしっかりといただきたいと考えています。

○議長（市長）

それでは皆様方、自由にご発言いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。どなたからでも結構です。

○加藤委員

本日の議題の「生きる力」ということで、総称していろいろな議題の１つとしてされてますけど、やはり教育長もおっしゃられましたようにコロナの中で非常に子どもたちも、なんで勉強しないといけないのかなと、少し疑問に思ってる子が多いんじゃないかと思います。なかなか学校に行きづらく、ちょっと感染者が増えれば関係する学校の閉鎖ということがささやかれる環境の中で、子どもたちは、テストが有るのか無いのか、休みが突然来るんじゃないか、部活動は有るのか無いのかと、そういうのもわからないまま計画性を持って様々な学習を進めていくことができなくなってるんじゃないかなと思います。よく新聞で報道されてますけど、引き籠もりの子が増えたり、あるいは自死を選んで残念な結果になったっていうようなことを聞きます。特に島根県は他県に比べると人口密度が非常に広範囲にわたるということで、人と人との関わり方というのも人口密度に関係してくるんじゃないかと思います。

ちょっと話が戻って適正配置の件ですが、どうしたって自治会や小中学校は人口減少とかそういった煽りを受け、広範囲に面倒を見ていかなきゃならない時代に入ってきました。そうすると、人と人との距離が広くなってしまって行き届かない。何かが起きないと近寄るきっかけがないということになると人間力といいますか、人を思いやる気持ちっていうのが生まれないんじゃないかというような背面も孕んでいるなと思います。ただ、良い面もあって、市長さんも体験されたと思いますが、インターネットやクロームブックを介していろいろな情報交換ができたり、プログラミングができたり、いろいろな駆使方法があると。そういったことを駆使しながら、これからの子どもたちは世の中で活躍していかないといけないんだろうなということを思うと、やはり大人の我々も置いてけぼりにならないように寄り添っていかないといけないなと思います。

特にＩＣＴがどんどん進んで、本当に１人３台みたいな時代が来るかもしれません。我々が想像してないような機器がこれが生まれてくるんだと思います。私もプログラミングとか非常に苦手でぜひ聞いてみたいんですけど、市長、体験されましたけども、実直な感想をお話いただければなと思います。

○議長（市長）

今のご意見、非常に皆さんも実感しておられると思います。また、私に質問ですけども、この歳になってから物事を１回聞いたり１回体験しただけではできないものだと思いました。プログラミングについては、こういう時代の変化に合わせ、さっき言われましたように切磋琢磨して人といろいろと話をしたり同じ授業を受けることで、真剣になっていったり好きになっていったりしないとなかなかできないことでもあるのだと思いました。ただ、授業について非常に感心したことは、今までは先生の目が届かないと誰が何してるかわからなかったんですが、大きい画面で誰が何をしているのか、何を考えているのか、どういったことを書いてるのか、その先生が一度に把握できることですね。一人一人の子どもの目や顔を見なくてもわかるということは初めて体験しまして、教育の仕方も変わったんだと思いました。ですが、先生方も大変だと思いますけども、そういった環境のなかで育った子どもたちも、やはり最後は切磋琢磨をすることが大切だと思いました。ただ単に一人で授業を聞いていてもその範囲は超えられませんし、進歩がないなということも感じました。

他に意見がございましたらお願いします。

○寺田委員

私はよそから来たもので、安来市でこうしていろいろな役をさせていただいて、非常に立ててもらって、多分、私の生まれ育った都会では人数が多く、埋もれてしまってどこにいるのかわからないような状態だったと思っております。その中でこうして活躍させていただいて非常に喜んでるところでございます。

ただ、やはり一番の問題点は、日本全国の人口がどんどん少なくなっていく中で、過疎地では余計少なくなっていく。そうした中で、自然があれば生きる力は大きいと思うんですけども、その反面、人と人との繋がりというのが非常に希薄になっていくような気がしております。ましてや学校教育の中で切磋琢磨という言葉もありますけども、そうした人間形成において、特に小学校・中学校においては、人間との関わりが非常に強く影響されていくんじゃないかと。良い人がいる、悪い人がいる、じゃあ自分はどうするんだというようなことを考えるような機会が少ない。人数が少なければ当然そういったことが起こり得ると思いますが、そのような状態がすぐそこにきてるような気がしております。

そういった面で学校再編は非常に大切で、早急に問題を解決していかなきゃいけないし、地域全体で考えていかなければいけない。今後されると思うんですけども、どんどん地域にも投げかけて、いろいろな人の意見を出してもらいながら地域全体で考える。それから安来は良いところだということを情報発信しながら、出てきた人には戻ってきてもらう、都会の方で疲弊してる人には是非安来に来てもらってのびのびといろいろな仕事に携わっていただくというようなことが重要じゃないかと思います。子どもたちは、近年ふるさと教育や職場体験等いろいろなことで地域を見る機会が増えてきて、また、それを学校側も上手に使っておるんですけども、その橋渡しとしてコーディネーターさんがおられます。だけど人数が少なく、先生方が転勤等で人が変わったりするとその繋がりが少なくなるので、地域に残ってそういった橋渡しを常に考えて、こういったことをもっと広げようというような意欲のある人材を育てながら、生徒たちにできるだけ地域を見る機会を増やしていく。そうすることによって、例えば大学に出たときに、安来は良いなあ、やっぱり戻らないけんなあ、安来できることがいろいろある、というようなことを考えさせてあげられるような場面を作らしていただきたいと思っております。

○議長（市長）

ありがとうございます。他にございますでしょうかね。

○平野委員

私は今まだ子育て中なんですけども、教育長さんが最初におっしゃったように、「知・徳・体」のバランスをよくする。そういった教育を私も望んでいます。ＩＣＴの活用等にすごく力を入れていらっしゃって、クロームブックで子ども達のノートの内容が把握できるというのは教師の方々にとってとても便利だったり、学力がどの程度あるのかっていうことが一目瞭然で良いかなと思うんですけれども、その反面、表面には出ない感情や思いみたいなものは、やっぱり普段の姿をしっかり見ていただいたり行動をよく観察していないと気づいてもらえないのではないかなと思っています。自分の子育ての中でもそれはすごく感じているので、やはりそういったところを大事にしていかないといけないんではないかなと思っています。

それと、子どもたちを育てていて私もすごく実感してるんですけど、先ほどもあったように、交流センターがとても身近だと感じています。長期休暇の時に希望者を募って、親がさせてあげられないような体験をさせていただいて、雪のシーズンに雪の積もっている奥田原でスキー体験をさせてもらったり、とんどさんみたいなことをしてもらったり、夏は川遊びをしてもらったり、家ではできない体験をたくさんさせてもらいました。友達とも一緒に活動できるし、地域の自分の身近な人以外の大人の人との交流もできるし、子どもたちにとってすごく良い活動をさせてもらったなと考えているので、地域のコーディネーターさんの重要性をすごく感じています。子どもたちの育ちにとても利益を与えてくださっているのに、人数が本当に少ないなと思っているので地域コーディネーターの方の人材育成をしていただけたらなと思いました。

○議長（市長）

よろしいですかね。今いろいろご意見いただきました。次は（イ）地域と連携・協働した学校教育についての意見がございましたらお願いします。

○小村委員

地域と連携した取り組みという視点でお話させていただきます。私は荒島地区在住でして、交流センターは活発に活動しておられ、活性化テーマ別の団体を作ったりして活動しておられます。学校では何年生は梨の学習、何年生は中海の水質検査など、総合的な学習の時間に関連させて学習をしておられます。協力者がたくさんおられ、そういう意味では非常に充実した地域での連携が取れているんではないかなと思います。ただ、他の地区の詳しいことはわかりませんが、なかなかそこまでできてない地区があると聞いております。やはり地域格差があり、安来に在住している子どもが学ぶ機会を等しく受けられるような体制ができないといけないかなということで、交流センターの役割が非常に重要ということも先ほど担当課長さんがおっしゃられましたが、現実的には役割を押し付けられると、センター長さんたちも重荷になるのかなと思いますので、その辺をどういうふうにやっていくと良いのかなということも、常々感じているところでございます。今後、単発の行事ではなく、学習と少し関連させた息の長い課外学習みたいなものを学校の中で導入できるように、最終的にはそれぞれの地域に頑張ってもらわないといけない部分ではあるかとなと感じています。

○議長（市長）

ありがとうございます。他にこの件につきましてどうでしょうか。先ほど平野委員からも同じような意見もございましたが、現在、地域コーディネーターは中学校区に２人ですか？

○大谷地域振興課長

中学校区ごとにコーディネーターさんが配置されてまして、一中校区は２名、二

中、三中校区は１名ずつです。それから、広瀬地区が３名で、伯太地区は１名いらっしゃいます。

○議長（市長）

他にはよろしいでしょうか。そういたしますと次の（ウ）安心して学習できる教育環境の整備を議題に意見をいただきたいと思っておりますが、ご意見をお願いします。

○小村委員

新型コロナウイルスの影響で、中学校で学級閉鎖があったようで、もう終わったのかわかりませんが、ある日子どもが登校しないのでおかしいなと思っておったところ、そういう状況でした。それで、本題からちょっと外れるんですが、今回このタブレット端末を休校中に持たせて何か学習に活用されたのかお聞きしたかったんですが、どうでしょうか。

○三保学校教育課長

こういったコロナ感染が拡大して学校が休業になるということを想定して、これまでも実証実験等を進めておりましたけれども、今回の休業に関しましては、休業期間が短かったということもありまして、オンラインの授業というのは今回は実施はしておりませんでした。ただ、該当の学校では、タブレット端末を事前に持ち帰らせて、その端末で活用できる学習用アプリのドリル教材等を使い、個人学習を想定をして活用されたというような話は聞いております。

○寺田委員

ちょうど昨日小学校５年生の孫が、クロームブックを持って帰って、「おじいちゃん、うちのＷｉ－Ｆｉのパスワードは何？」っていうので教えてあげたら、宿題が出てたみたいですぐに開いてやっていましたけど、コロナで学級閉鎖かなんかした時の対応かなと思っていましたが違うようで、ただ開いて嬉しそうな顔で、すぐに全部できたと言って宿題をやっていました。そういったことをどんどんやってあげた方が、新しいものに挑戦することは子どもたちにとって才能を発揮する機会だと思います。まだ安来市内でＷｉ－Ｆｉ環境がないところもあるのでなかなか全部のところへ持たせられないというのを以前聞いたことがあるので、もうできてるのかどうかわかりませんけども、そういったところでＷｉ－Ｆｉ環境をもう少し整備していただけたらと思います。その反面、やっぱり機械ばかり頼るんじゃなく、地域で見るということも大切だと思います。また、去年１年間いろいろな学校を回らしてもらいましたが、学校によってすばらしい建物とこれは大丈夫かなっていう建物がありました。特に山間部の方へ行くとちょっと心配な建物があって、非常に格差があるなと感じました。ただ、これにお金かけるのもどうなのかなというような気がしておりますし、そういった意味ではやはり何らかの決断を出しながら、より良い学習環境施設っていうのを考えていくべきじゃないかと、過渡期に来てるんじ

ゃないかというような気がしております。

○議長（市長）

Ｗｉ－Ｆｉ環境につきましては、各家庭でネットに繋ぐ契約さえすればＷｉ－Ｆｉ環境はできますね。

○三保学校教育課長

Ｗｉ－Ｆｉ環境が整っていないご家庭もおそらく市内でトータルで１０％ぐらいはあるのではないかなと思っています。先ほどのお話にもありましたけれども、実際に今回もコロナで悪いことばかりではなくて、子どもたちに学習用端末について様子を聞いた時に、家庭で活用していくっていうような動きも見えておりまして、そういった対応を今後考えていかなければならないと思っています。この休業も含めてですが、地域振興課の協力も得まして、各地域の交流センターではＷｉ－Ｆｉ環境は整っておりますので、現段階においてはそういった場所を利用させてもらって学習を進めていくということが、環境の整ってないご家庭への対応としております。

それから端末を活用した家庭学習というのは、おそらく今後は必須になってくるだろうと思います。そういった意味では、少しずつではありますけれども、家庭での環境を整えていくことを協力を求めるとともに、教育委員会としてもその支援の方法ということも考えていかなければならないと考えます。以上です。

○加藤委員

安心して学習できる教育環境の整備については、当たり前のことかもしれませんけども、子育て世代やそういった方々においてはこれが一番関心のあることじゃないかなと思います。やっぱりそれが満足していればわざわざ市外に移転することもないですし、あるいは安心して学習する環境が整っていれば転入者も増えるだろうしということであろうと思います。

新年入ってすぐだったと思いますけど、山陰中央新報さんが記事に上げておられましたが、出雲市で住みやすさや施策に関する住民の満足度調査というものが行われてまして、その結果が出ておりました。私も興味があったので、新聞を取っておいたんですけども、１８歳以上の４，０００人を対象に実施しておられ、一番関心が高いのがやっぱり学校関係ですね。細かく言うと、学力向上の取り組みや不登校やいじめ対策、施設の環境の整備を含む小中学校の充実が最も関心が高いという結果でした。それに次いで、やはり環境整備で、歩道の整備やバリアフリーに対する配慮であったり、就職支援、子育ての支援の充実と続いたそうです。おそらくこれは、安来でもそういう満足度調査を実施した場合も同じ結果が出るんじゃないかなと思います。

子育て世代の方々が何を求めているのかということは、やはり各市町村で人口の度合いを見れば大体わかってくるのではないかなと思います。決して田舎だから人

がいなくなるとか、都会だから人が寄ってくるとかっていう簡単な問題ではないんじゃないかなと思います。現に１月に新聞に出てましたが、東京はいよいよ人口が減少してきました。もうちょっと先ではないかなと思われていたのが、コロナ禍において生活環境がガラッと変わって、推計されていたものを前倒して５年から１０年ぐらい早く人口が減少に転じています。今後もそれが続くだろうというようなとこを見ると、さっき言ったように、都会だから人が集まるとかではなくて、子育てしやすい教育環境が整ったところにみんなが求めて転出していくということが如実に表れた結果かなと思います。その辺も踏まえ、提言や基本方針が大分出来上がったと思いますので、ぜひ加速して実施に向けて取り組んでいっていただきたいなと思いますのでよろしくお願いいたします。

○議長（市長）

ありがとうございました。それでは、教育環境の整備につきましては、このぐらいにしたいと思います。

続きまして、大きなイの適正配置の進め方についての説明を事務局の方からお願いします。

○遠藤教育総務課長

失礼いたします。では、先ほどの目次をご覧ください。

私からは、適正配置の進め方について、４．適正配置を検討するにあたっての考慮すべき事項の（４）安来市の実態に応じた規模・配置について、５．適正配置に向けた基本的な考え方の（４）安来市の実態に応じた規模・配置についての視点、そして６．適正配置の進め方の（３）スケジュールについて説明をさせていただきます。

では、１３ページをご覧ください。（４）安来市の実態に応じた規模・配置についての１）複式学級についてです。複式学級については、島根県においても複式学級指導の手引きが作成され、複式学級の良さや指導上の課題を整理し複式学級の特性を生かす学習指導の充実に努められています。しかしながら、個別最適な学習とともにある協働的な学習におけるグループ学習の保障などの課題もあります。複式学級の優れている点、不足している点を踏まえて検討していくこととしております。

次に２）校区割りについてです。原則、義務教育の小中学校においては、校区割りがあり、本市においても規則により通学区域が定められております。今後は、児童、生徒の特性により、小規模校への通学を希望される場合の対応も必要であることなど含め考えております。

次に３）適正規模についてです。規模につきましては、「小学校の学級数は１２学級以上１８学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときはこの限りでない。」とされております。児童、生徒が集団の中で、多様な考えに触れることなどを通じて成長していくことが重要である。こういった考え

から、地域の実態に配慮しながらも、一定規模の児童、生徒数の確保についても、検討する必要があるとしております。

次に４）通学時間、通学距離、方法についてです。通学距離が小学校にあっては、おおむね４キロメートル以内、中学校及び義務教育学校によっては、おおむね６キロメートル以内であることとされております。徒歩だけでなく、スクールバスや公共交通機関を利用しての登校が想定されますが、特に低学年の児童に対する登下校に要する時間と距離、または専用のスクールバスの配備とその運用方法について考慮する必要があるとしております。

続きまして１６ページをご覧ください。先ほど説明いたしました適正規模について、その基準を具体的に示しております。枠囲いをご覧ください。１つ目、小学校は１学年の児童数を１０名以上とする単式学級を基本に検討する。また、地域の実態を踏まえ、３年生以上の複式学級を編成する場合、グループ学習を考慮し２学年の児童数の下限は１０人を基本に検討する。２つ目、中学校は全クラスでクラス替えが可能になるよう１学年２クラス以上を基本に検討する。３つ目、中山間地域においては画一的に基本的考えを適用するのではなく、上記の基本的な規模を縮小して検討するなど慎重に進める。検討を始めるに当たりまして、やはり具体的な基準は必要であるとの考えから示したものであります。

続きまして、１７ページをご覧ください。枠囲いの１つ目、通学距離は小学校でおおむね４キロメートル以内に、中学校ではおおむね６キロメートル以内とする。２つ目、通学時間は小中学校ともおおむね１時間以内とする。３つ目、遠距離通学では、交通の手段の確保と支援策を検討するとしております。

続きまして、３）小中一貫教育についてです。小中一貫教育については、小学校と中学校を一貫とする義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校などがあり、教育の円滑な接続を目指す様々な教育の一つの形であるととらえております。県内にも導入している自治体もあり、本市の実情を考慮した一貫教育を様々な方面から検討する必要があり、適正配置の方針の策定においても、多方面から検討することが必要であるとしております。

続きまして、１８ページをご覧ください。６．適正配置の進め方です。（１）検討体制について、学校の再編を考えるにあたっては、行政だけでなく児童、生徒や保護者、地域の方々など関係者の理解と協力が非常に重要であるとしております。

また、（２）地域のあり方と一体的に進めるでは、学校と地域は密接な関係にあり、地域のあり方と一体的に考えていくとしております。ここで申し訳ございません。訂正お願いします。目次では、（２）地域との連携についてと記載しておりますが、ここに表記されております表題は、地域のあり方と一体的に進めると表記しております。これを目次に表記しております地域との連携についてに訂正をさせていただきます。大変申し訳ございません。よろしくお願いいたします。

そして最後に（３）スケジュールについてです。安来市の将来を見据え、全体計画のスケジュールを明確にし、迅速かつ着実に進めることが必須であるとしております。１９ページをご覧ください。令和４年度以降につきましては、今回の基本方針に基づきます基本計画の策定を目指します。図の中央にあります、安来市小中学校適正配置審議会を条例に基づき設置し、基本計画を審議し、答申をいただくこととしております。また、アンケート調査や地区説明会の実施などを参考に、基本計画を策定いたします。さらに、将来は実施計画の策定として、個別学校（校区）ごとの詳細を検討していくと予定をしております。以上、イ、適正配置の進め方の説明とさせていただきます。

今後につきましても、丁寧な説明とスピード感を持って、考えております。

私からの説明は以上です。

○議長（市長）

適正配置に向けた考え方について説明を受けましたけれども、委員の方々、ご意見等ございましたらお願いします。

○寺田委員

安来市の人口を今の学校数で割り振ると複式学級が必要で、決して複式学級が悪いというわけではなですが、１・２年、３・４年と、１年ずつずれていくということで、やはり組み合わせが非常に難しいし、学習内容を１・２年で学ぶもの、３・４年で学ぶものというように１・２年が一緒になってしまっているということで生徒たちに負担がかかるのかなというような気がしております。今現在、そこのところも踏まえて検討していただいてるわけですけども、スピーディーに持っていかないと今までも何回も審議会みたいなものが立ち上がっては消えていったということで、ここは腹を据えて結果を出すということを前提に話を進めていって欲しいと思います。そのためには焦ってするのではなく、時間をかけながらでも地域の人たちの声をすべてのところから聞いて精査しながらいろいろなところで声を上げやすいような説明会等も開いて、最終的に良いものを創り上げていく。令和８年には２００何人少なくなることが目に見えていますが、それを少なくとも将来ということじゃなく期限を切ってでも結果を出せるような審議会の内容を作っていただきながら、私たちも精一杯それに応えられるような検討をして、良いものを市長さんに出させていただけたらと思っております。

○議長（市長）

他にご意見はございませんでしょうか。

○平野委員

適正配置や複式学級などのことがありますけれども、少人数のところは子どもたちが少ないので統合して大きな学校にというのも良いですが、（４）の２）にある小規模特認校というのも私は良いなと思っています。昔からあると思うんですが、

山村留学のようなものだったりとか、高校だと隠岐島前高校があって、子ども達が集まっていると思うんですけど、こういった特色のある小規模特認校なんかも力を入れていかれたら良いのではないかなと思います。

○議長（市長）

他にはございませんでしょうか。

今回こうやって適正配置のことを提案いたしましたのも、私も議員生活を１５年しまして、議員活動として１００人を超す児童がおらる小学校でいろいろな活動をしました。２年前ぐらいに３０人程、今４０人ちょっとになりました。

安来駅の観光交流プラザで毎週日曜日に朝市をやってますが、平成２０年に小学校の児童といわゆる自然農法で夏野菜を作ろうかっていうことで、学校の校庭で作りました。校庭を耕して作りまして、せっかく種まきして作ったから、じゃあ売ろうかということになりました。ちょうどその時に観光交流プラザが開設になりまして、観光担当課長に頼んで机を用意してもらって始めたのが、朝市の始まりでした。そういったことができるのはある程度人がいないとできません。中山間地域はどんどん子どもが少なくなってきており、その日に生まれた子が１０年後に会ったときに何年生かすぐ分かるような状況でした。それだけ出生数が少なくなってきたのですが、何もしないで今までおったからこうなったわけです。

そうなるともちろん複式学級です。複式学級は悪いことだけではありませんけれども、ただ、人数が例えば１学年５人とか４人ですと、リーダーの人に勘定し、その意見だけに従っているわけです。ほとんど他の意見なんか聞かないですね。クラブ活動、スポ少をする人はいろいろ交流しますけども、人間形成上どうかということを保護者の方から言われて、こういうことを早くやらないとっていうことで、議員活動の時に提案しましたけれども、なかなか執行部に入れていただけませんで。執行部というか首長さんでしたかね。だけど、いろいろな意見があると思いますが、小さければ良い、大きければ良いってもんじゃないと思います。それぞれ良いところありますけども、人と人が交わることはある程度人がいないと難しいです。子育てが終わった人は小さくても学校があれば良いという感覚ですけど、子育て中の人はそうでない人がたくさんいまして、やっぱり子どもが成長するにあたって、小中学校のときにずっと同じ人とということだと困るのかなと。私の地元の二中はずっと１クラスです。しかも２０人です。だから、私の孫は安来高校に入った時に初めてクラス替えがありました。ただそういうことだとやっぱり困るのかなということも踏まえまして、いろいろな意見があることを承知していますので、こうやって皆さん方に意見を伺いながら一番良い方法で行こうと思ってます。

あとは、いろいろご意見いただいた中でやはり地域の関わり方が大切であると思っています。今日、地域振興課も来ていますが、交流センターが一番核になると思います。役所のほうでも充実するように計画してますし、放課後児童クラブや交流

センターでいろいろなことやってもらってますよね。英語教室や工作教室など外部講師を呼んでいろいろなことをやっておられます。韓国の姉妹都市であるミリアンに初めて行った時に見ましたが、生徒達はバスで８時半に登校し、１８時半に下校していました。ずっと全員います。おそらく１５時半ぐらいに授業は終わると思いますが、ずっと英語教室とかパソコン教室とか外部講師がどんどん来て、そこは確か幼稚園と小学校が一貫して学ぶところでしたが、ずっと帰らないわけです。あともう一つやってるのが、６年生は郷土芸能をびっしりと教わっていました。それが良いとか悪いとかではなく、どういうふうに人間形成するのかということで、良いとこは取っていければと思いました。それとやはり安来の場合は、児童クラブを連携してやれば良いところも出るのではないかという感覚を受けました。

私の意見ばかりではいけませんが、どうでしょうか、他にございますか。執行部の方はどうですか。

〇金山総務課長

来年度につきましては、適正配置の審議等を踏まえて、改めて調整させていただきます。大体年２回開催しておりますので、また調整していただきますのでよろしくお願いします。以上です。

〇議長（市長）

私がいろいろなこと言いましたけど、この際せっかくでございますので、何かその他ご意見ございましたら、またみんなでこれから審議することが妥当ではないかと思われることがありましたら、ご提案いただければと思いますが、いかがでしょうか。

〇加藤委員

この基本方針にはちょっとだけしか触れてないんですけども、１７ページの３）小中一貫教育について、これは施設に絡めて皆さんが期待するところの一つでもあると思います。小中一貫校ができるんじゃないかとか、そういう期待もあるわけですけども、適正配置という難しい言葉で話を進めると、地域住民の方とか子育て世代の親御さんたちからすると、あまり良い印象は持たないといいますか、後ろ向きな発想しか想像できない。そういったところもありますけども、やっぱり小中一貫教育、小中一貫校がもしかしてできるのかもしれないというようになった時に何を期待するのか、どういった効果が現れるのかというような前向きな話も、今後は少しずつ進め方として取り入れて行くべきではないかなと思います。

簡単には小中一貫校になれば９年間、１年生から９年生まであるわけですね。市長さんのお話の中にもありましたが、１年生から９年生までとしますと、やっぱり人数もそれなりの規模になりますし、大きな子が小さな子の面倒が見れる機会ができるということが僕は非常に良いんじゃないかなと思います。それに絡めて高校も何らかの形で携わっていくようなことになると高校生が小学校１年生、２年生と交

流する機会があって、例えば勉強であったり部活動であったりということになると、この効果っていうのはすごいものになるのではないかと思うんです。スポーツなんかでもそうですけど、先輩後輩ぐらいしかない固まった部活を少人数でやってるとどうしても技術力が上がっていかない。大会に出ても試合にならない。惨敗して帰る。子どもは一生懸命頑張るんだけど親が落胆してもう辞めてしまえと言ってしまいがちで結局続かない。そういうような連鎖が続いていくと、やっぱり面白くないですよね。これが中学校のお兄ちゃんお姉ちゃん、高校のお兄ちゃんお姉ちゃんたちがいろいろ指導してくれたり一緒に遊んでくれたりっていうことを通じて、人間形成っていうのは醸成していくものだと思いますし、そういったような良い面を小中一貫校、や高校も含めたところで考えることができたら非常に夢がある話になるんじゃないかなと思います。

先日出雲に元日本代表のサッカー選手の本田圭佑選手が来られました。出雲に来て松江に来て、次は安来かなと期待していましたが。ニュースでしか私も見てないですが、彼の構想としては、都市部だから強いサッカー選手が出てくるみたいなことではなく、田舎ほどサッカーをする環境が整ってないので、そういったところをこれから開拓していかなきゃいけないということで、島根に来られたんだそうです。社会人で頑張ってるサッカー選手とこれから始めようとする子どもたちを何とか繋げようと、そういうプロジェクトに参画してるんだと思います。

そんなことができると、自然と子どもは、プロじゃないかもしれないけどもそういった大人に憧れて、いろいろな技術を習得して楽しみを覚える。こういうような機会に触れるということが大事なんだろうなと思うし、学校においてもそういうような相乗効果が期待できるというところを全面的にしていくべきじゃないかなと思います。ちょと長くなりましたが以上です。

○議長（市長）

他に何かございますか。

○秦教育長

今加藤委員のお話を伺いましたが、２学期の終わりだったと思うんですけど、情報科学高校に二中校区の３つの小学校の６年生が出かけまして、プログラミングの授業を高校生が６年生に指導し、そして、高校生が自分たちが経験した中学時代の話をこれから中学校に入る６年生に対してアドバイスをしたっていう行事がありました。それで、先ほど言われるように、少し上の子どもたちがお兄さんお姉さんっていう形でロールモデルになるということで、縦割り班という活動があります。高学年が低学年のお世話をするということの中で、高学年の子どもたちは低学年の子たちの役に立ったという自己有用感、自己肯定感とかいろいろな言葉があるんですけど、それを高めることができ、それから低学年の子たちは、自分もあんな立派なお兄ちゃんお姉ちゃんになるんだぞという気持ちが高まっていくというような

ことで、小学校は小学校の中で、中学校は中学校の中で取り組んでいます。

それで、小学校・中学校の適正配置ということなんですけど、せっかく市内の高校がありますので、中等教育学校という枠組みも実はありまして、それは中・高が一貫して学ぶような学校の仕組みというふうに考えていただければいいんですけれども、そうした縦の繋がりということを含めて、小学校、中等学校の６年間と６年間で１２年間ですね。そういった縦の繋がりも意識できるような方向性で、前回も確かモデル的な取り組みをして、発信もしながら、市民の皆さん方にもご理解をいただいていくという視点を、皆さんにお話いただいたかなと思っていますので、またそういったようなところもしっかり考えていきたいなと私も思いました。

以上です。

○議長（市長）

他に何かございますか。

○寺田委員

先ほど加藤委員さんも言われましたけど、再編っていうとどっちかっていうと暗い感じがするわけですけど、やっぱり明るい未来に向けて何かプラスアルファを作りながら、小中一貫校という部分でも構いませんし、どっかと再編するなら何かをプラスアルファして、前向きな部分だよということをやっていかないと、過疎だから学校を再編して統合するよと言われると、地域の人たちは反発もするだろうし、非常に心の負担が大きいような気がします。何かそこには明るい未来があるんだよ。そういうことによって、子どもたちが、将来学力的にも能力的にも大人になっていくんだよというようなところも加味して、プラスになるようなものを考えていきたいと思ってますし、考えていただけたらと思っております。

○議長（市長）

どうでしょう、よろしいでしょうかね。いろいろご意見いただきました。

それぞれのご意見ございましたけども、中山間の特色ある教育も残していかなきゃいけないと思っています。私事ですが、私は団塊世代で宇賀荘は一学年７０数名、全校生徒で３５０人ぐらいいまして、揉まれて育ったと思っております。今、孫を見てますと、人数が少なく誰かの言いなりにならなきゃいけないようです。他に相談できる人がおらず、先生も事務仕事が忙しいということでなかなか相談できないような状況だそうです。人数が少ないということは先生自体も少ないんです。都会から見て田舎が良いと思っていることと、田舎から見てというのは考えが違っていて、私は高校で中山間の人と一緒になりましたが全く考えが違うんですよね。世の中いろいろな人がいますので、あまり極端なことはよくないなと思っています。ですから、ある程度のそういう夢が描けるような学校のあり方を検討していただけると良いと思います。

今後の協議事項につきましていろいろご希望があると思いますし、ご意見がある

と思います。今日、言い忘れたということもあると思います。そういうことも総務課また教育総務課の方にお寄せいただきまして、今後のことを協議していただきたいと思っております。

この会議の中で議論を重ねていただきまして、市長部局、教育委員会等が連携をいたしまして、総合的に教育行政を推進していきたいと思っています。そして、それが安来市の豊かな未来を築く担い手の人材育成になると思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

それでは以上をもちまして、本日の会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。